

イ 関  
ベ 連  
ン  
ト

●講演会

参加無料

絵図から読み解く川の災害

歴史地理学と歴史学の専門家による、絵図をもとにした川の災害の講演会とトークセッション。

日時	8月8日(土) 13:30~16:30 (開場 12:30)
会場	静岡市葵生涯学習センター(アイセル21)1階ホール 定員 どなたでも200人(全席自由)
講師	島本多敬氏(滋賀県立琵琶湖博物館学芸員) 出演 大石学(当館館長) 増田亜矢乃(当館学芸員)
申込	7月11日(土)10:00~静岡市歴史博物館ホームページ申込フォームで先行受付 7月17日(金)10:00~静岡市歴史博物館(054-204-1005)で電話受付(申込順)
共催	徳川みらい学会 静岡市葵生涯学習センター(指定管理者(公財)静岡市文化振興財団)

●企画展関連トーク

参加無料 申込不要

7月12日(日) 13:30~14:30 会場:静岡市歴史博物館 1階市民活動スペース  
「江戸時代の安倍川と災害」講師:当館学芸員  
江戸時代に起こった安倍川の災害と対策について、企画展にあわせて紹介します。

7月26日(日) 13:30~14:30  
「安倍川と駿府用水」講師:柴雅房氏(静岡県地域史研究会幹事)  
安倍川は駿府のまちに凄惨な水害をもたらしましたが、一方で、駿府用水などを通じて水の恵みをもたらしました。駿府用水の実態や堤防、水門など人々が安倍川と寄り添うための技術、工夫を紹介します。

8月23日(日) 13:30~15:00  
「礫と清流:安倍川が育むカエルとサンショウウオ」  
講師:岡宮久規氏(ふじのくに地球環境史ミュージアム主任研究員)  
初夏の中流域で美しい声を響かせるカジカガエル、険しい源流域でひそやかに暮らすアカイサンショウウオ。とくに両生類に焦点をあてて、「礫と清流」をキーワードに安倍川が育む豊かな自然を紹介します。

8月29日(土) 13:30~14:30  
「安倍川の災害と治水事業」講師:石浦寛朗氏(静岡河川事務所副所長)  
近年、各地で頻発している水害について、身近に流れる安倍川の特徴や過去の災害について学び、国土交通省静岡河川事務所が行っている治水事業や災害発生時における対応について紹介します。

9月6日(日) 13:30~14:30  
「家康の都市計画と堤防」講師:当館学芸員  
薩摩藩は「薩摩土手」をつくったのか。「駿府御囲堤(いわゆる薩摩土手)」が築造された経緯と背景を、徳川家康の町づくりに注目して、新たな視点で探ります。

7月11日(土)・12日(日)に企画展をご観覧いただいた各日先着100名様に **博物館オリジナルノベルティプレゼント!** [3階展示室入口にて配布します]

学芸員と行く! 参加無料  
見て学ぶ、安倍川の災害対策

災害対策車両の見学や、学芸員の案内による水害に関する史跡の解説を通じて、過去と現在の安倍川の治水対策を学びます。

日時	7月25日(土) ①9:30~11:00、②14:00~15:30 集合時間 ①9:15、②13:45
集合場所・共催	国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所(静岡市葵区田町3丁目108番地) ※駐車場あり
内容	静岡河川事務所~災害対策車両の見学~ 弥勒周辺の安倍川の史跡の解説(現地解散)
対象	①小学生とその保護者...10組20人 ②どなたでも(小学生以下は保護者同伴)...20人
申し込み	6月20日(土)10:00~ 静岡市歴史博物館(054-204-1005)で 電話受付(申込順)



歴史博物館への交通アクセス

- JRをご利用の場合** 「静岡駅」下車、北口から
- 徒歩15分、タクシーで約10分
  - しずてつジャストラインバス「県庁・静岡市役所葵区役所前」下車 徒歩6分
- 静岡鉄道をご利用の場合**
- 「新静岡駅」から徒歩8分
- 富士山静岡空港をご利用の場合**
- 空港からしずてつジャストラインバス 富士山静岡空港静岡線「新静岡」下車 徒歩8分
- お車で越す場合** ※隣接及び近隣の有料駐車場をご利用ください。詳細はホームページをご確認ください。
- 東名静岡ICから約20分

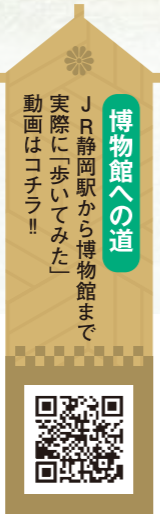
観覧料	個人	団体
基本企画展示	一般 750円 高校生・大学生・静岡市居住70歳以上 520円 小中学生 180円	600円 410円 150円
企画展示のみ	一般 150円 高校生・大学生・静岡市居住70歳以上 100円 小中学生 30円	120円 80円 30円
静岡市内居住・通学の小中学生、未就学児	無料	

※「一般」以外の方は身分証明書をお持ちください。  
※障害者手帳をお持ちの方、指定難病・小児慢性の方とその介助者1人無料。(要提示)  
※団体料金は20人以上の団体に適用されます。



**ミュージアムショップ・カフェ**  
(1階 無料エリア)  
ミュージアムショップでは、企画展図録やオリジナルグッズ、地元企業とコラボした商品等を販売しています。併設のカフェでは、コーヒーや抹茶シェイクのほか、軽食もお楽しみいただけます。

① 歌川広重「東海道五十三次之内 府中 あへ川遠景」当館所蔵



静岡市歴史博物館  
Shizuoka City Museum of History

静岡県静岡市葵区追手町4番16号 電話:054-204-1005  
ホームページ:https://scmh.jp FAX:054-204-7373  
指定管理者 公益財団法人静岡市文化振興財団



静岡市歴史博物館  
Shizuoka City Museum of History

会場	静岡市歴史博物館 3階企画展示室
開館時間	9:00~18:00(展示室入場は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(国民の祝日・休日の場合は開館、翌平日休館) ※8月10日(月)は臨時開館

# 安倍川

【あべかわ】

安倍川は、静岡県と山梨県の境にある標高約2000mの大谷嶺を水源とする急流の一級河川です。静岡市葵区の北部から駿河区の南部まで、約51kmを南北に流れ、駿河湾に注いでいます。安倍川の周辺には暮らしや災害の歴史を伝える史跡が残されています。

## はじめに 名物「安倍川餅」を生んだ川

PROLOGUE

慶長6(1601)年、徳川家康が東海道の宿駅制度をととのえたことにより、たくさんの人々が東海道を行き交うようになりました。しかし道筋である安倍川には当時橋がかけられていなかったため、雨で増水すると渡れなくなり、旅人を悩ませました。川の両岸で売られた名物「安倍川餅」は、そんな旅人たちの大きな楽しみとなりました。



歌川広重「東海道五十三次之内 府中 あへ川遠景」当館所蔵

## 第1章 川沿いの暮らし

安倍川の流れは、水や土を運んで人々にたくさんの恵みをもたらしてきました。江戸時代に安倍川沿いに暮らした人々は、豊かな環境を活かして、川沿いに田んぼや畑を開き、山では茶やわさび、スギやヒノキなどを育てました。



新宮(中村)高平「駿河志料」古文書 八十 静岡浅間神社所蔵

## 安倍川源流域



## 第2章 崩れる、流される

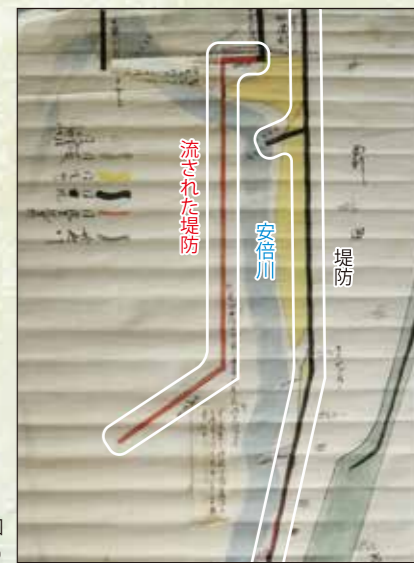
川沿いの山々は崩れやすく、地震や大雨が起こると土砂崩れが発生しました。また大雨が降ると、安倍川はひんぱんに増水して、洪水を引き起こしました。町や村にのこされた古文書や絵図は、川沿いの災害の様子を伝えてくれます。



字日影沢人家山崩押埋添絵図 個人蔵

## 第3章 町と村を守る

災害から町や村を守るため、安倍川沿いには「駿府御囲堤(薩摩土手)」などの堤防が築かれました。この地を治める江戸幕府や領主だけでなく、安倍川沿いに暮らす人々も、山や川の管理や土木工事(川除普請)など、被害をおさえ暮らしを守る取り組みに加わりました。



中島村安倍川堤防之図 当館所蔵(中島区有文書)

## おわりに 安倍川とともに生きる

EPILOGUE

明治7(1874)年、ついに安倍川に橋がかけられました。明治維新後に東海道線が開通し、大正3(1914)年の大洪水後には堤防工事も進み、川沿いの暮らしや景色は次第に変化していきます。安倍川は今も豊かな水をたたえ、災害や暮らしの歴史、人々が育んできた文化を私たちに伝え続けています。



静岡大洪水惨状之実況 静岡県立中央図書館所蔵

